

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ハビー湘南台教室		
○保護者評価実施期間	2025年 7月 25日		2025年 8月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	56	(回答者数) 54
○従業者評価実施期間	2025年 7月 21日		2025年 7月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業所向け自己評価表作成日	2025年 8月 28日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	直接支援における支援力・満足度	<ul style="list-style-type: none"> ・支援後のフィードバックで今回の支援の意図やご家庭で練習できることなどをお伝えし、その場で保護者様よりいただいた困り感や課題となる点を個別支援計画に基づき、他職員と共有、検討し、次回の支援プログラムに取り入れている。 ・毎朝終礼時に全職員で情報共有を行い、統一の認識のもとで支援が実施できるように努めている。 ・支援プログラムを組み立てる際は、前回までの記録を各自確認し、お子さまの現状に合わせた課題設定を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員間で、支援内容や保護者様からいただいた困り感に対するアプローチを検討する際に、より多くの職員が意見交換に参加できる時間を確保し、多角的視点から支援プログラムを組み立てていくことで、支援力向上を図っていく。 ・引き続き、お子さまや保護者様とのコミュニケーションを密に図り、お子さまの成長や変化を共有していく。
2	お子さまと保護者様のニーズや課題を客観的に分析した上で作成した個別支援計画に沿った支援プログラムの実施	<ul style="list-style-type: none"> ・個別支援計画検討会では、面談時に伺ったニーズをもとに療育的観点や就学を見据えた課題になるように職員間で話し合い、作成を行っている。 ・支援プログラムの組み立ての前には必ず個別支援計画を確認し、活動に反映できるようにしている。 ・支援後のフィードバックでは個別支援計画のどの部分にあたるかなどの説明を中心にお伝えをしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、個別支援計画の内容を把握した上でプログラム作成を実施するようにしていく。 ・個別支援計画の支援内容欄に目的や有効な支援教材等を記載し、どの職員が見ても共通認識のもとで支援が実施できるようにしていく。
3	個別支援計画や支援内容についての説明や共有の丁寧さ	<ul style="list-style-type: none"> ・個別支援計画を交付する際に具体的な支援の提案をしながら、分かりやすくお伝えするよう心掛けている。 ・個別支援計画を基に支援に入る職員へは特に活動の様子から検討したい部分を伝え、共有を図ることで保護者様への説明や質問を受けた際にどの職員でも共通認識で対応できるように体制を整えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員によって説明の方法に差が生じないように、定期的に職員間で伝え方、提案の仕方の確認、共有を行っていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	避難訓練の実施報告や安全対策等における情報周知	<ul style="list-style-type: none"> ・固定枠で通所されている為、限定された日時に避難訓練を実施すると大半の参加が難しいのではないかと。 ・参加人数が少ないため、実施後の周知や関心が希薄なのではないかと。 ・安全や非常時の対応についての資料の格納場所が目届きにくい場所である可能性が考えられるのではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練の実施報告等は、モニタールーム内の掲示板に当日の写真などを掲載するなどして目立つ形で掲示していく。 ・避難訓練には多くのお子さまや保護者様が参加できるように複数日の開催を検討していく。 ・安全や非常時の対応マニュアル等は、どこに格納されているのかを知らせるための掲示を検討していく。
2	保護者会などの家族支援やご兄弟も対象のイベントの開催が少ない	<ul style="list-style-type: none"> ・支援室確保などの調整により、不定期での開催や直前でのお知らせになってしまうことが多いため、ご都合を調整することが難しいのではないかと。 ・周知が行き届いていないのではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡アプリでのお知らせ配信後も、直接口頭のご案内や既読確認を行い、開催の周知を広めて行く。 ・開催後の様子をお知らせすることで認知度や需要を高め、定期開催ができるようにしていく。 ・日程を複数日設けることで、利用のニーズに寄せた開催を検討していく。
3	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会が少ない	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所の提供形態からその他地域の子どもたちとの交流の機会が設定しづらいことが要因ではないかと。 ・個人情報やプライバシーの観点から開催が難しいのではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、ご利用者様の在園する園との関係機関連携にて支援の共有を図り、園との良好な関係を築きながら直接支援・間接支援・地域支援の療育が展開できるように努めていく。 ・地域の交流イベント等は、今後どのような形で取り入れられるかを検討していく。